

## 創世記8-9章「祝福の新たな始まり」

### 1A ノアと家族を覚える神 8

#### 1B 水が引く大地 1-12

##### 1C 山に留まる箱舟 1-5

##### 2C 鳩によるいのち 6-12

#### 2B 箱舟から出るノア 13-22

##### 1C 主の命令 13-19

##### 2C 全焼のいけにえ 20-22

### 2A 贖いが必要な世界 9

#### 1B 新たな祝福命令 1-7

#### 2B 永遠の契約 8-17

##### 1C 再び起こさない大洪水 8-11

##### 2C 虹によるしるし 12-17

#### 3B 再び始まる罪 18-29

##### 1C 民族の分かれ 18-19

##### 2C 父の裸 20-29

## 本文

創世記 8 章を開いてください。私たちは前回、ノアの時代に起こった大洪水について学びました。6 章と 7 章が、主が、堕落して、悪に傾いた世に対する神の裁きを証しているのであれば、8 章と 9 章は、新たな始まりを示しています。主は、世を水によって裁かれましたが、箱舟によって、世からの救いを示しておられます。ここから、箱舟の中にいるノアとその家族を覚える神の働きから、見ていきたいと思います。

### 1A ノアと家族を覚える神 8

#### 1B 水が引く大地 1-12

##### 1C 山に留まる箱舟 1-5

<sup>1</sup> 神は、ノアと、彼とともに箱舟の中にいた、すべての獣およびすべての家畜を覚えておられた。神は地の上に風を吹き渡らせた。すると水は引き始めた。

この一節に、これから読む、神のなされることのすべての思いが詰められています。それは、「覚えておられた」という言葉です。主は、彼らを決して忘れていませんでした。ずっと覚えておられました。そして今、行動を開始されるのです。彼らのために、水を引き始めるようにされます。

聖書には、この「覚える」という言葉が数多く出てきます。ある時、ユダヤ教のラビと会話した時に、「私たちは、記憶の民だ」と仰っていましたが、決して過去を忘れることなく覚えることによって、未来に生きるのです。主は、エジプトで虐げられ、苦しんでいる民を、覚えておられました。「出エ 2:23-25 それから何年もたって、エジプトの王は死んだ。イスラエルの子らは重い労働にうめき、泣き叫んだ。重い労働による彼らの叫びは神に届いた。24 神は彼らの嘆きを聞き、アブラハム、イサク、ヤコブとの契約を思い起こされた。25 神はイスラエルの子らをご覧になった。神は彼らを見こころに留められた。」エジプトに来てから四百三十年経っていましたが、主は決して忘れておらず、覚えておられました。覚えていたので、今、彼らを苦しみから脱し、ご自分にある自由に中に導き入れようと行動に移されるのです。

私は、自宅から遠くないところに、東京拘置所があります。そこには死刑囚が収監されています。その三人の方に、お菓子の差し入れをしています。近くに住んでいますし、千代田線からは必ず、東京拘置所が見えるんですね。その屋上では、運動するために外に出てくると聞いていますから、「いるのかな～」と思ったりします。そして、覚えているので、行動に移すのです。先週は、暑く、差入店に着いたら、体がふらふらしていました。けれども、覚えているので行動に移します。主なる神は、このようなことを行われます。覚えて、そして事を行われるのです。

ゆえに、主イエスは、私たちに、ご自身が私たちを愛して、血を流して罪から解放してくださったこと、今も罪から自由にされていることを思い起こさせるようにしているのです。「Ⅰコリ 11:23b-25 私は主から受けたことを、あなたがたに伝えました。すなわち、主イエスは渡される夜、パンを取り、24 感謝の祈りをささげた後それを裂き、こう言われました。「これはあなたがたのための、わたしのからだです。わたしを覚えて、これを行いなさい。」25 食事の後、同じように杯を取って言われました。「この杯は、わたしの血による新しい契約です。飲むたびに、わたしを覚えて、これを行いなさい。」こうやって、罪の赦しと、罪からの解放、主の愛を今も、これからも受けていきます。

そして、「神は地の上に風を吹き渡らせた」とありますね。それで水が引き始めるのですが、風のヘブル語「ルアフ」は、霊とも訳すことのできる言葉です。ここでは、一つのことを思い出します。そう、天地創造です。神の霊が、大水の面の上で動いておられました。そうやって、神が世界を造られたのです。主は今、新たに、やり直しの世界を造られます。

<sup>2</sup> 大水の源と天の水門が閉ざされ、天からの大雨がとどめられた。<sup>3</sup> 水は、しだいに地の上から引いていった。水は百五十日の終わりに減り始めた。

大水の源というのが、地下水のことですが、ここが裂けて大水が出てきました。それから、天の水門が開かれました。けれども、下と上のどちらもが閉じられます。そして、150 日後に減り始めます。当時は一カ月が 30 日と数えられたので、ちょうど 5 か月後です。

<sup>4</sup> 箱舟は、第七の月の十七日にアララテの山地にとどまった。<sup>5</sup> 一方、水は第十の月まで減り続け、第十の月の一日に、山々の頂が現れた。

7章11節には、「**ノアの生涯の六百年目の第二の月の十七日**」とあります。この月は、政治の暦ということで、政暦(せいれき)とも呼ばれるもので、ユダヤの暦では私たちの使っている西暦、西洋の暦の9月に始まります。ラツパを吹き鳴らす日が、政暦において第一の月、新年です。

そして、その第七の月に、イスラエルの民は後に、エジプトを出ていくことになります。出エジプト記12章に、「**この月をあなたがたの月の始まりとし、これをあなたがたの年の最初の月とせよ。**」とあります(2節)。その14日が過越の祭りです。それはニサンの月とも、アビブの月とも呼ばれます。ユダヤの暦は、ですから、政暦と宗教暦のどちらもがあります。

そこで非常に興味深いのは、「**第七の月の十七日**」というのが、宗教暦ですとニサンの月の十七日になり、その時に初穂の祭りになります。過越の三日目に、大麦の初穂を献げるのです。この時に、箱舟がアララト山にとどまったのです。

この第七の月の十七日、あるいは、ニサンの月の十七日というのが、聖書の歴史の中で大きな出来事になります。イスラエルの民がエジプトを離れ、荒野への道が「三日」と言います(5:3)。すなわち、紅海を渡る時が十七日だった可能性があるということです。さらに、ヨシュアたちがヨルダン川を渡り、そこで、約束の地の実を食べていったのも、過越の祭りの翌日とあるので、その辺りです(ヨシュア 5:11)。分かりますか、主が民を解放し、新たな歩みを始めるのを記念している時が、アララト山に箱舟が留まった日なのです。

さらに見ていきますと、ユダの王ヒゼキヤが、神殿の清めを断行して、それが終わったが第一の十六日とありますから、その翌日が17日です。(Ⅱ歴代 29:17)そして、エステル記で、ユダの民を滅ぼし尽くす勅令が出て、モルデカイがエステルに伝えて三日目にエステルがペルシア王の前に行きます(5:1)。その四日前に、第一の月の十三日にその勅令が出ました。つまり、エステルによるユダヤの民の救いが始まるのが、第一の十七日になるのです。

そして何よりも、私たちの主イエス・キリストが、過越の祭りの三日目、第一の十七日に墓の中からよみがえられています！人が、罪の縄目から解放され、新たな復活のいのちが与えられた日になるのです。

それもそのはず、ここの箱舟が「とどまる」というのが、慰めを意味する「ノア」と重なる言葉になっています！水による裁きが、箱舟によって守られ、箱舟によって救われ、その箱舟が山の上にとどまっているのは、あたかも、主がいのちにある新しい勝利に憩っている姿です。主が、罪から来

る死に勝利して、そこに留まっておられる姿です。箱舟が、まさに主が葬られた墓の棺桶であるかのように、主イエスの死に私たちがあずかり、それで私たちの罪が葬られ、そして、主のよみがえりに私たちがあずかるかのようです。水の中に入り、水から出てくると言うバプテスマが、この箱舟による水を通しての救いに表れています。

ところで、「アララテの山地」にとどまったとありますね。アララテという山ではなく、アララテという地名のところにある数々の山ということです。「ウラルトゥ」と呼ばれる地名のヘブル語がアララテです。紀元前 9 世紀から 6 世紀までに、ウラルトゥという王国がありました。それは今、トルコ東部、アルメニア、ロシア南部、イランの北西部をまたいでいます。トルコ東部には、箱舟が留まった跡と呼ばれているところがあります。そしてアルメニア自体が、ノアの箱舟を大事にしています。アルメニア正教という、キリスト教の古来の一派があり、その聖堂のモザイクが聖墳墓教会の中にありますが、床のモザイクがノアの箱舟でした。

#### 2C 鳩によるいのち 6-12

<sup>6</sup>四十日の終わりに、ノアは自分の造った箱舟の窓を開き、<sup>7</sup>鳥を放った。すると鳥は、水が地の上から乾くまで、出たり戻ったりした。

四十日の終わり、すなわち雨が降り続けた後に、天窓を開いて鳥を放っています。その後で、鳩を放つ場面が出てきます。ここにも、主の裁きとその後にある新たないのちを見ることができます。

鳥は肉食です。大洪水によって浮かび上がった動物の死体を食べていたのではないかと思います。ですから、出ていっては死体の上で食べて、それで戻ってくるような日々を過ごしていたのではないかと思います。鳥は、レビ記 11 章によれば猛禽類で、食べてはいけない汚れた動物とされています。そして、聖書に出てくるのはエリヤに、肉を運んできた鳥だということです（Ⅰ列王 17:6）。エリヤは、北イスラエル王国がバアル信仰を取り入れたので、神が飢饉をもって裁かれる時に遣わされた預言者です。したがって、罪に対する神の裁きをよく表しています。水に浮かんでいる死体をついばんでいるのですから、神の裁きの光景です。

<sup>8</sup>またノアは、水が地の面から引いたかどうかを見ようと、鳩を彼のもとから放った。<sup>9</sup>鳩は、その足を休める場所を見つけられなかったので、箱舟の彼のもとに帰って来た。水が全地の面にあったからである。彼は手を伸ばして鳩を捕らえ、自分がいる箱舟に入れた。<sup>10</sup>それからさらに七日待って、再び鳩を箱舟から放った。<sup>11</sup>鳩は夕方になって、彼のもとに帰って来た。すると見よ、取ったばかりのオリーブの若葉がそのくちばしにあるではないか。それで、ノアは水が地の上から引いたのを知った。<sup>12</sup>さらに、もう七日待って、彼は鳩を放った。鳩はもう彼のところに戻って来なかった。

鳩は、レビ記 11 章によれば、清い動物に当てはまり、いけにえとしては家鳩も選ばれます。そし

て、その鳩が今、地の面が引いたかどうか、水の上を飛んでいる姿を見ます。これこそが、先に言及した、「神の霊がその水の面を動いていた(創世 1:2)」光景に重なります。そして、主がバプテスマを受けられる時に、「マタ 3:16b すると見よ、天が開け、神の御霊が鳩のようにご自分の上に降って来られるのをご覧になった」とあるのです。

段階的に、鳩が放たれていますね。初めは、足を休める場所が見つかりませんでした。ここでも、「休む」という、ノアの名前に重なる言葉が使われています。そして、七日間、待っています。天地創造は六日で、七日目が安息ですね。そこで、「**オリーブの若葉**」をくちばしに加えていました！オリーブの木は、山の高いところでも育ちます。だから、山の上の部分は乾いていることが分かりました。あの地域は、オリーブの木が主要ですから、聖書でも何度となく出てきます。ゲッセマネの園が、まさにオリーブ山にあります。そして、ゲッセマネは圧搾の意味で、オリーブの実を圧搾して、その油を採取するのです。主ご自身が父のみこころに従って、潰されますが、そこから油が出てくる、主の聖霊の流れが起こることを意味します。

そしてさらに七日待つと、鳩は戻ってきません。こうやって、主の裁きから、それが過ぎ去り、主の御怒りも去り、今は、安息と慰め、平安がやってきているということです。私たちも、主イエスによって、自分の罪が十字架で身代わりに裁かれ、その後で神との平和を持ち、主の復活のいのちを得るのです。

## 2B 箱舟から出るノア 13-22

### 1C 主の命令 13-19

<sup>13</sup> 六百一年目の第一の月の一日に、水は地の上から干上がった。ノアが箱舟の覆いを取り払って眺めると、見よ、地の面は乾いていた。<sup>14</sup> 第二の月の二十七日には、地はすっかり乾いた。

ついに、第一の一日、まさにユダヤ暦の正月に、水が干上がりました。ノアが覆いを取り去った時には、地の面が乾いています。干上がった時はかなり湿気のある土ですが、第二の時の二十七日、雨が降ってから一年と十日が立ちましたが、地がすっかり乾いています。

<sup>15</sup> 神はノアに告げられた。<sup>16</sup>「あなたは、妻と、息子たちと、息子たちの妻たちとともに箱舟から出なさい。<sup>17</sup> すべての肉なるもののうち、あなたとともにいる生き物すべて、鳥、家畜、地の上を這うすべてのものが、あなたとともに出るようにしなさい。それらが地に群がり、地の上で生み、そして増えるようにしなさい。」<sup>18</sup> そこでノアは、息子たち、彼の妻、息子たちの妻たちとともに外に出た。<sup>19</sup> すべての獣、すべての這うもの、すべての鳥、すべて地の上を動くものも、種類ごとに箱舟から出て来た。

主がここで、ようやく命じられました。そしてノアたちは従います。これが、一貫して見えることで

す。箱舟を造りなさい、箱舟に入りなさい、そして今は、箱舟から出なさいと命じられています。そして、その通りにしたとそれぞれにあります。ノアは、主を信じているがゆえに、その言われていることに従っています。

そして、これは新たな始まりです。新たなやり直しと言ったらよいでしょう。ノアとその家族だけでなく、すべての生き物も一緒に出ます。それも地で生み、増えるようにします。主がアダムを造られた時に、生き物を支配しなさいと言われたのと同じです。新たに、ノアの家族に、その祝福を注いでくださいます。

#### 2C 全焼のいけにえ 20-22

<sup>20</sup> ノアは主のために祭壇を築き、すべてのきよい家畜から、また、すべてのきよい鳥からいくつかを取って、祭壇の上で全焼のささげ物を献げた。<sup>21</sup> 主は、その芳ばしい香りをかがれた。そして、心の中で主はこう言われた。「わたしは、決して再び人のゆえに、大地にのろいをもたらすはしない。人の心が思い図ることは、幼いときから悪であるからだ。わたしは、再び、わたしがしたように、生き物すべてを打ち滅ぼすことは決してしない。

午前礼拝でお話した通りです。ノアは、主の恵みに応答しています。全焼のいけにえで応答しています。アベルの時から、主は動物のいけにえを喜ばれます。血を流されるということによって、いのちが注がれることで、主が罪を赦してくださるからです。前もって、清い家畜、清い鳥を七つがいを用意しなさいと命じておられましたが、ここで献げています。

その献げ物に対して、主が芳ばしい香りをかがれて、憐れみを示されます。大地に呪いをもたらすことはすまいと決められました。もし、彼らの悪のゆえに裁いていたら、何度も裁かないといけなからです。けれども、主は憐れみに富んでおられて、その憐れみを、初めから、幼い時から悪に傾くことにまで知っておられて、それで、ご自分に一方的な真実によって、人を贖うご計画を立てられるのです。

それが、12 章以降に見る、アブラハムとの契約です。そして、モーセの契約もありますが、それはアブラハムとの契約のゆえに更新されて、新しい契約になります。また、その前にダビデとの契約もあり、キリストによる神の国の到来も約束されます。そこに主の真実が表れています。

<sup>22</sup> この地が続くかぎり、種蒔きと刈り入れ、寒さと暑さ、夏と冬、昼と夜がやむことはない。」

これはまさに、今に至るまで続いていますね。これこそが、主が約束と契約を守っておられる証拠です。私は、この四季の変化がある時に、ノアに対する神の約束を思い出すのです。



## 2A 贖いが必要な世界 9

### 1B 新たな祝福命令 1-7

そこで主が、祝福の命令を出されます。

<sup>1</sup> 神はノアとその息子たちを祝福して、彼らに仰せられた。「生めよ。増えよ。地に満ちよ。<sup>2</sup> あなたがたへの恐れとおののきが、地のすべての獣、空のすべての鳥、地面を動くすべてのもの、海のすべての魚に起こる。あなたがたの手に、これらは委ねられたのだ。<sup>3</sup> 生きて動いているものはみな、あなたがたの食物となる。緑の草と同じように、そのすべてのものを、今、あなたがたに与える。

アダムに対する主の祝福命令とほぼ同じです。主が新たに、やり直しを与えられました。けれども、じっくり見ると、完全な刷新ではありません。これまでは、人は植物だけを食べるものとしておられましたが、今、動くものすべてを食べるものとして与えておられます。だから、動くものが恐れるおののいています。イザヤ 11 章を見ると、メシアによって世界が回復された幻がありますが、そこで獅子が草をはむ様子が書かれており、弱肉強食がなくなります。

<sup>4</sup> ただし肉は、そのいのちである血のあるままで食べてはならない。<sup>5</sup> わたしは、あなたがたのいのちのためには、あなたがたの血の価を要求する。いかなる獣にも、それを要求する。また人にも、兄弟である者にも、人のいのちを要求する。<sup>6</sup> 人の血を流す者は、人によって血を流される。神は人を神のかたちとして 造ったからである。<sup>7</sup> あなたがたは生めよ。増えよ。地に群がり、地に増えよ。」

ここで、主はようやく、カインのアベル殺害について、またその後の暴虐について取り扱ってられます。人を殺してはならない、いのちを大切にしなければいけないことを徹底して教えます。

まず、「そのいのちである血のあるままで食べてはならない」であります。血にこそ、いのちが表れており、それを食べないことで、いのちの尊厳を保ちます。それでモーセの律法の中で厳しく命じられます。そしてそれが、主ご自身の流された血において、神ご自身の御子のいのちが献げられたことに、究極の形で現れます。そのことを覚えて、血を食べないのです。

初代教会においてユダヤ人がいる手前、異邦人の信者にも血で絞め殺したものを食べてはならないと定めています。「使 15:19-20 ですから、私の判断では、異邦人の間で神に立ち返る者たちを悩ませてはいけません。20 ただ、偶像に供えて汚れたものと、淫らな行いと、絞め殺したものと、血とを避けるように、彼らに書き送るべきです。」これは、異邦人でも、ユダヤ人たちがいるところでは、血を避けなければいけないのを知っているから、つまりかせないように食べないようにと指示を与えています。モーセの律法の下ではなく、愛の律法に縛られているんですね。

次に、「あなたがたのいのちのためには、あなたがたの血の価を要求する」ということです。主は、暴虐のゆえに大洪水で滅ぼされました。けれども、もう行われません。しかし、そこでそのまま暴虐をはびこらせることはなさいません。それを、いのちを取る者のいのちを取るということを、人に任せられます。それが、国に与えられた権力です。

パウロが、ロマ書 13 章で説明しています。「13:1-4 人はみな、上に立つ権威に従うべきです。神によらない権威はなく、存在している権威はすべて、神によって立てられているからです。2 したがって、権威に反抗する者は、神の定めに従うのです。従う者は自分の身にさばきを招きません。3 支配者を恐ろしいと思うのは、良い行いをするときではなく、悪を行うときです。権威を恐ろしいと思いたくなければ、善を行いなさい。そうすれば、権威から称賛されます。4 彼はあなたに益を与えるための、神のしもべなのです。しかし、もしあなたが悪を行うなら、恐れなければなりません。彼は無意味に剣を帯びてはいないからです。彼は神のしもべであって、悪を行う人には怒りをもって報います。」ここです、無意味に剣を帯びていないのです。国家権力は、悪を抑制するために、主がお立てになっています。

そして、「神は人を神のかたちとして 造ったからである」というのが、殺してはいけない理由です。どうして動物は殺して良くて、人を殺すのがいけないのか？それは、神のかたちに造られているから、ということです。

## 2B 永遠の契約 8-17

### 1C 再び起こさない大洪水 8-11

<sup>8</sup>神は、ノアと、彼とともにいる息子たちに仰せられた。<sup>9</sup>「見よ、わたしは、わたしの契約をあなたがたとの間に立てる。そして、あなたがたの後の子孫との間に。<sup>10</sup>また、あなたがたとともにいるすべての生き物との間に。鳥、家畜、それに、あなたがたとともにいるすべての地の獣、箱舟から出て来たすべてのものから、地のすべての生き物に至るまで。

主が、箱舟を造りなさいと言われた時に、契約を結ぶと言われました。ここで宣言しています。それはノアだけでなく、ノアからの子孫、すなわち私たち全員です。さらに、生き物に対しても契約を結ばれています。人も生き物も、すべて含めてです。

<sup>11</sup>わたしは、わたしの契約をあなたがたとの間に立てる。すべての肉なるものが、再び、大洪水の大水によって断ち切られることはない。大洪水が再び起こって地を滅ぼすようなことはない。」

そうです、もう二度と、大洪水によって断ち切られないというのが、契約におけるしるしです。だから、もしこれが地域の洪水であれば、これまで主の約束がかなえられていないことになります。そうではなく、全世界をおおう大洪水であれば、主は今に至るまで約束を守られています。



そして、水による裁きは行われませんが、聖書では、終わりの日には火による裁きがあることを、預言者が次々と預言しました。例えば、イザヤ 13 章 13 節には、「それゆえ、わたしは天を震わせる。大地はその基から揺れ動く。万軍の【主】の憤りによって、その燃える怒りの日に。」とあります。地もゆらぎ、燃える怒りがあります。24 章には興味深いことが書かれています。なぜ、主がそれを行われるのか？「24:5 地はその住民の下で汚されている。彼らが律法を犯して定めを変え、永遠の契約を破ったからである。」永遠の契約とありますが、これがノアを通しての契約ですね。イスラエルの民ではなく、地上の住民、そこに生きている物すべてが、神から与えられている契約です。

## 2C 虹によるしるし 12-17

<sup>12</sup> さらに神は仰せられた。「わたしとあなたがたとの間に、また、あなたがたとともにいるすべての生き物との間に、代々にわたり永遠にわたしが与えるその契約のしるしは、これである。<sup>13</sup> わたしは雲の中に、わたしの虹を立てる。それが、わたしと地との間の契約のしるしである。<sup>14</sup> わたしが地の上に雲を起すとき、虹が雲の中に現れる。<sup>15</sup> そのとき、わたしは、わたしとあなたがたとの間、すべての肉なる生き物との間の、わたしの契約を思い起こす。大水は、再び、すべての肉なるものを滅ぼす大洪水となることはない。<sup>16</sup> 虹が雲の中にあるとき、わたしはそれを見て、神と、すべての生き物、地上のすべての肉なるものとの間の永遠の契約を思い起こそう。」

主は、契約を与えられる時、確認の印を押すようにして、しるしを与えられました。虹です。虹はもちろん、雨が降った後、日が差すので見るができるものです。したがって、大洪水ではなくその前に雨がやみ、日が差したことを示す虹をもって、確かに主が契約を守っておられることを確認することができます。

それは、アブラハムとの契約では割礼です。モーセとの契約では安息日です。そしてダビデとの契約では「息子」が印となります。イザヤ 7 章に、インマヌエルという名が与えられます。そしてエレミヤを通しての新しい契約は、イエス様の弟子たちに対する言葉です。「これは、あなたがたのために流される新しい契約の血です」というものです。血そのものが、新しい契約の印なのです。私たちが、イエスの流された血を見る時に、それが確かに私たちの罪が永遠に赦されたことを確認するものとして与えられています。

<sup>17</sup> 神はノアに仰せられた。「これが、わたしと、地上のすべての肉なるものとの間に、わたしが立てた契約のしるしである。」

こうやって、ノアとの間に契約が結ばれました。これで、新しい歩みが始められます。しかし、次から早速、また新たな問題が発生します。ノア自身が、アダムがかつて犯したように罪を犯します。そして、ノアの息子が、罪を喜び楽しんでいる姿が出てきます。

### 3B 再び始まる罪 18－29

#### 1C 民族の分かれ 18－19

<sup>18</sup> 箱舟から出て来たノアの息子たちは、セム、ハム、ヤフェテであった。ハムはカナン之父である。

<sup>19</sup> この三人がノアの息子たちで、彼らから全世界の民が分かれ出た。

ノアの息子たちが、セム、ハム、ヤフェテです。ここで著者モーセは、「ハムはカナン之父である」と、敢えて記しています。ここが後に大事になります。10 章でカナン人が出てきて、そして、モーセの時代には、聖絶されるべき民として出てきます。

そして、もう一つこの三人の息子たちから、民族が分かれ出ます。これも実は、罪の結果です。11 章で、バベルの塔で言葉がばらばらになって、それで民族に分かれます。

#### 2C 父の裸 20－29

<sup>20</sup> さて、ノアは農夫となり、ぶどう畑を作り始めた。<sup>21</sup> 彼はぶどう酒を飲んで酔い、自分の天幕の中で裸になった。

なんと墮落の種は、正しい人、全き人と呼ばれるノアにも残っていたのです。彼こそが慰めを与える者、メシアのように期待がかけられていましたが、彼はそうではないことがわかります。これが聖書の今後の展開です。旧約聖書を読めば、究極的に、だれも義人はいないということがわかります。義は神にしかなく、キリストこそが義であるという信仰に導かれて行きます。

アダムと同じような罪を犯していますね。善悪の知識の木から実を取って食べたのですが、こちらは飲みました。そして、裸であることに気づいて、恥ずかしくなりましたが、彼もまた裸になって、恥をさらしています。

<sup>22</sup> カナンの父ハムは、父の裸を見て、外にいた二人の兄弟に告げた。<sup>23</sup> それで、セムとヤフェテは上着を取って、自分たち二人の肩に掛け、うしろ向きに歩いて行って、父の裸をおおった。彼らは顔を背け、父の裸は見なかった。

ハムは、「父の裸を見て」とあります。これは、チラ見をしたわけではありません。ヘブル語は、じっくりと調べるように見ている。見ているのを楽しんでいるという意味合いさえあります。ハムは、父の罪に対して、その裸に対して、あざけりの思いと同時に、それをあからさまに楽しんでいる様子が見受けられるのです。

それに対して、セムとヤフェテは、自分たちは見ないようにしたのです。そして、父の裸を「おおって」います！ここに、何が分かりますか？そうです、主が、アダムとエバに対して行ってくださったこ

とです。裸を覆うために、皮の衣を造ってくださいました。罪について、その恥について、覆うというところに主の思いが反映しています。ペテロが第一の手紙でこう言いました、「4:8 何よりもまず、互いに熱心に愛し合いなさい。愛は多くの罪をおおうからです。」

<sup>24</sup> ノアは酔いからさめ、末の息子が自分にしたことを知った。<sup>25</sup> 彼は言った。「カナンはのろわれよ。兄たちの、しもべのしもべとなるように。」

ノアが、呪っています。けれども、これは明らかに預言になっていることが分かります。行ったのはハムなのに、ハムの子であるカナンを呪っているからです。これは、ハムの子カナンから出てくる子孫が、ハムが行ったのと同じ特徴を有することを予見してのことなのです。罪に対して、悲しみと恥ずかしさを持つのではなく、むしろ、それを笑い、喜び、露出していくということです。

<sup>26</sup> また言った。「ほむべきかな、セムの神、主。カナンは彼らのしもべとなるように。<sup>27</sup> 神がヤフェテを広げ、彼がセムの天幕に住むようになれ。カナンは彼らのしもべとなるように。」

セムについては、メシアが彼から出てくる預言になっています。セムの子孫にアブラハムが出てくるのを、11 章にある系図で読むことになります。そして、ヤフェテですが、次の 10 章で、子孫が広範囲に広がるのですが、後にセムの子孫であるユダヤ人を通して、福音が広がっていきます。

しかし、カナンは、セムにおいても、ヤフェテにおいても、しもべとなれとノアは命じているのです。セムの影響下に入り、またセムの恩恵を受けるヤフェテの支配に入って、カナン人が悪いことを行わないようにさせていくのです。そのことによって、カナン人の行う忌まわしいことが、人々に広がらないようにしていくのです。これは聖書時代の歴史に実現されて行きますが、次回のメッセージでお話していきたいと思います。

<sup>28</sup> ノアは大洪水の後、三百五十年生きた。<sup>29</sup> ノアの全生涯は九百五十年であつた。こうして彼は死んだ。

ノアは、洪水後もかなりの年数、生きていますね。350 年です。それから、全生涯がなんと 950 年です。アブラハムより長いです。しかし、11 章を見ますと、セムが 700 歳という寿命となり、どんどん減っていく様子を見ます。

このようにして、主の贖いの話は、これからずっと続きます。主が、箱舟によって、水を通して救われ、新たな始まりを与えられました。けれども、それは完全な回復ではありません。そして何よりも、ノア自身に罪が受け継がれていることがわかり、その子ハムはそれを喜び、楽しみました。ここに、キリストを待ち望む信仰と希望が映されています。この方にこそ完全な救いがあるのです。